

小論文課題

数年前、私はあるラジオ番組で「あなたが今までに学んだ最大の教訓は何ですか？」という質問に回答を求められたことがあった。答えるのは簡単だった。私が学んだ何よりも大切な教訓は「考えること」の重要性である。もし皆さんの考えていることがわかれば、私には皆さんがどういう人かわかるだろう。私たちの考えが今の私たちをつくるのだ。私たちの心構えこそ私たちの運命を決定する第一の要素であると言ってもよい。エマーソンは「明けても暮れても考えている事柄、それがその人なのだ」と言った……まさに至言ではなからうか？

さて、私たちが取り組むべき唯一最大の問題は、正しい考え方を選ぶことにあり、私は自信を持って断言する。もしこれができたら、私たちの問題にはことごとく解決の道が開けていくであろう。ローマ帝国に君臨した偉大な哲学者マルクス・アウレリウスはこれを短い文句に、あなたの運命を決定する短い文句に要約している。「我々の人生とは、我々の思考がつくり上げるものにほかならない」

そうなのだ。愉快的考え方をすれば、私たちは愉快になるだろう。みじめなことを考えはじめたら、みじめになる一方であろう。恐ろしいことを思い浮かべれば、恐ろしくてたまらなくなるはずだ。病的なことを考えれば、病気になるに違いない。失敗するのを気にしたら、間違いなく失敗してしまう。自分ばかりかわいがれば、他人からは敬遠され、皆が寄りつかなくなるだろう。ノーマン・ヴィンセント・ピールはこう言っている。「あなたは、あなた自身で考えているとおりのあなたではない。だが、あなたの考えていることは、あなたそのものだ」

私の言い方は、万事につけて底抜けの楽道家になれと主張しているように聞こえるだろうか？ そうではない、不幸にして人生とはそんなに単純なものではない。けれども私が主張したいのは、消極的な態度ではなく、積極的な態度を身につけようということだ。別の言葉で言えば、自分の問題に神経を集中しなければならぬが、悩む必要はない。では神経を集中するのと悩むのはどのように違うのか？ 事例を示そう。交通が渋滞しているニューヨークの通りを横断する時に、私はいつも自分の動作に神経を集中するが、別に悩みはしない。注意を払うというのは、問題の本質を見きわめ、冷静にそれを処理することである。悩むというのは、常軌を逸して無益な円のまわりをぐるぐるとまわることなのだ。

出典：デール・カーネギー著 香山晶訳 「道は開ける」 2016年1月20日発行 創元社 p.150-p.151

【課題】 上の文章の下線部において「考える」ということがどのように「あなたそのもの」であるのかについて筆者の考え方を説明し、あなた自身にとって「考える」とはどのように重要であるかについて、考えを741字以上800字以内で論述しなさい。